

各位

2025年9月19日  
会社名 のむら産業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 清川悦男  
(コード番号：7131 東証スタンダード)  
問合せ先 常務取締役 西澤賢治  
URL: <https://www.nomurasangyo.co.jp/>

## 2025年10月期 第3四半期 決算補足資料

この質疑応答集は、2025年9月11日に発表いたしました2025年10月期 第3四半期決算について、当社で想定していた質問および発表以降に株主、投資家などの方々から頂いたお問い合わせの内容と、それに対する当社の回答について、以下の通りお知らせいたします。なお、本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

### Q1 | 通期業績予想を上方修正されました。特に営業利益については、前期比で+47.2%の大きな利益成長を予想されていますが、期初の計画と比較して大きく上振れになった理由を教えてください。

A | 期初の原材料価格高騰による価格転嫁や政府備蓄米の放出に伴う資材需要に対応したことで、包装資材に関連する売上高は堅調に推移いたしました。また、機械関係も鮮度保持ニーズに対応した販促強化が奏功したことなどにより売上高は堅調に推移いたしました。

これらの増収効果に加え、生産性の向上やDX化の推進などによる業務効率化を継続的に進めたことも寄与し、期初の予想を上回る成果を達成することができました。

また、需給バランスの乱れが見られる中においても、当社の使命である安定的な包装資材の供給体制が高く評価されたことが、今回の結果につながったと考えております。今後も企業価値のさらなる向上を目指し、持続的な成長に向けて、市場ニーズに即した製品開発およびサービス品質の向上に取り組んで参ります。

### Q2 | 今回の通期業績予想の修正により、今期の営業利益は7.4億円の予想となり、中期経営計画における2027年10月期の計画値をすでに超えていることとなります。中期経営計画の見直しの方針を教えてください。

A | 前期、および今期については、猛暑によるコメ不足やコメ価格高騰による令和の米騒動などの外部環境の影響が大きくあり、中期的な予想が立てづらい状況が続いております。中期経営計画の見直しが必要なことは認識しておりますが、現在の状況がいつ一段落するのかもまだ読めない状況のため、事業環境の変化を注視しつつ、変化に対する対応の準備を優先し、事業運営を行って参りたいと考えております。

**Q3 | 米の増産計画を政府が打ち出していますが、御社に対して考えられる影響を教えてください。**

**A |** 国内でのコメの流通量が増加することは、当社にとってプラスに働くことが考えられます。しかしながら、消費者動向による市場のニーズが変化していくことも考えられますので、今後の市場環境を注視し柔軟に対応できる体制を整え、市場のニーズを捉えた商品やサービスを提供して参りたいと考えております。

**Q4 | 期末配当予想を増額修正し、前期比で+30円の増配の計画に変更されました。あらためて、今後の株主還元方針を確認させてください。**

**A |** 当社では、株主の皆様への利益分配の重要性を認識し、株主還元の基本方針として、「今後の成長投資に向けた内部留保を確保するとともに、配当についても連結の配当性向25%程度を目標としつつ、継続的かつ安定的な利益配分を実施していく」としておりますので、今回の上方修正を踏まえて増額修正をおこないました。今後も、安定的な株主還元をおこなって参りたいと考えております。

以上